

(様式1)

令和7年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立菊川小学校
校長名	谷澤 あゆみ

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・国語科では、3・5・6学年の平均正答率は両観点とも全国平均を上回っている。特に3・5年生の「思考・判断・表現」では10ポイント以上上回っている。この3学年については、読解力があり、6年生下位層の底上げに少しずつ成果が見られている。 ・社会科では、4・5・6年は全ての観点別平均正答率で全国と同じか上回る結果となっているが、4・6年生は全国平均との差が少なくなっている。指定された言葉を使って文章で答える問題に誤答・無答が多い。 ・算数科では、2年生以外はどの学年も全観点別平均正答率で、全国平均を上回っている。3・5年生が10ポイント以上上回っている。2年生は知識・技能が全国平均－0.3となっており、加減の計算が定着していない児童が少数であるが見られる。3年～6年長い文章で書かれた問題につまずきが多い。 ・理科では、4・5年全観点において平均正答率が全国平均を上回っている。6年「知識・技能」は－1.7で、実験や観察の結果を整理して記憶した内容が活用できていない。 ・英語科6年では、「知識・技能」で10.2ポイント上回っており、全般に向上が見られる。	・国語科では、4年生の漢字書き取り、主語・述語・ローマ字で基礎・基本の地道な積み上げが必要である。2年生は、書く力が低い児童がおり、個別の指導を要する。 ・社会科で4年60年前の暮らしについて穴埋めで答える問題、人口の移り変わりについて指定された言葉を使って答える問題に無答・多かったため、筆記回答の仕方に慣れさせる。 ・算数科については2年生の加減の計算の定着を確実にさせる。 ・2年3つの数の計算、計算の方法を説明する問題、三角形の色板で作った図形、3年箱の形の辺と面の数、三角形と四角形の問題、4年生グラフ、重さ、5年三角定規を使ってできる角度を求める問題、6年分数・小数の大きさの比較、割合、グラフの活用につまずきが見られた。定着するまで繰り返し問題に取り組ませる必要がある。 ・理科では、4年磁石、虫眼鏡の使い方、5年ものの温まり方、回路、人体6年ふりこ、水溶液、ヘチマの受粉に関する理解を定着させる。 ・英語科6年では、目標値に達しなかった児童に「会話を聞いて聞き取る力」を付けさせていく。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「テストで間違えた問題はあとでやり直しをしていますか。」という質問では、2年87.1%、3年88.3%、4年77.2%、5年84.2%、6年81.1%が「いつもやり直している」「だいたいやり直している」と回答している。	・「平日、一日どれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に、「まったくしない」と回答した児童が、2年9.7%、3年11.8%、4年12.1%、5年5.3%、6年14.5%おり、一部の児童には家庭での学習習慣が身に付いていないことが分かった。家庭学習の

・「授業や日常生活の中で不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べていますか。」という質問では、2年66.1%、3年48.5%、4年65.1%、5年52.6%、6年56.5%が「いつも調べている」「だいたい調べている」と回答している。	内容や、方法について個別に指導する必要がある。 ・「一週間に何冊くらい本をよみますか」という質問に、「まったく読まない」と解答した児童が2年生17.7%、3年生30.9%、4年生19.7%、5年生34.2%、6年生33.3%おり、読書率の低い学年があるため、読解力向上のためにも図書室の活用をさせていきたい。
--	---

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・タブレット端末を活用し、画像や動画などの資料を授業の導入で提示して、児童の興味・関心を高めることができた。また、ロイロノート等で児童の意見を集約し、様々な考えを比較することができ、それぞれの考えを効果的に検討することができた。 ・ミライシードなどのアプリを使って、宿題などで楽しみながら練習問題に取り組む児童が増えた。	・自分の考えに自信をもって発表できるように学習過程を児童によく理解させ、自力解決の時間確保、発表の方法の定着を図る。 出された意見を検討する活動、ふりかえりにも力を入れ、全員が何らかの方法で学習内容の要点をアウトプットできるようにする。 ・学習活動に取り組めない児童には、個々の力に応じた課題を提示し、必ず授業に参加できるように支援する。放課後補充教室で前学年に遡って基礎的・基本的な内容の定着を図る。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 年間を通した学力向上の取組

学習ふりかえり週間、学力パワーアップ週間、東京ベーシック・ドリル

朝学習・朝読書、放課後補充教室・放課後チャレンジ教室、家庭学習の定着

(2) 課題解決型の学習過程の定着

教師の授業力向上のための授業観察、学習規律の徹底、自力解決の時間の確保、話形の活用
児童相互の話し合い活動の充実

(3) S P表の活用と理科・社会の復習

個別の実態把握、ふりかえりシート、問題データベースの有効な活用

(4) 自主学習週間の推進

自主学習週間における個別の課題による自主学習の推進（9月、2月の第3週）

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全学年、全観点で全国平均正答率＋5ポイント以上をめざす。
- ・全学年のD・E層の割合を20%以下にする。
- ・現4年生の下位層を引き上げ、国語の正答率平均は全国平均を上回る。

本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 年間を通した学力向上の取組

学力向上委員会を中心に、学力向上のための取組を年間を通して計画的に進める。全学年・全学級で確実に取り組み、各教科において基礎・基本の定着を図る。

時期	主な取組
4 月	学力パワーアップ週間①（区学力調査過去問題に取り組む） ○墨田区学習状況調査・全国学力調査
5 月・6 月	○墨田区学習状況調査の解き直し・解説
7 月・8 月	区学習状況調査の返却・学力向上プラン作成・マイアセスの活用
9 月・10 月	自主学習週間①・学習ふりかえり週間①東京ベーシック・テスト①
11 月・12 月	学習ふりかえり週間②
2 月	自主学習週間②
3 月	学習パワーアップ週間②・東京ベーシック・テスト②・学力向上プランの評価

○朝学習・朝読書

毎週火曜日・木曜日・金曜日の 8 時 30 分～8 時 40 分、全学級で朝学習に取り組む。

火曜日 国語（漢字練習・漢字ミニテスト・読解プリント（よむよむワークシート・音読）

木曜日 読書（私語を慎み、静かな環境で全員が読書に取り組む）

金曜日 算数（計算ドリル・100マス計算・ミライシード）

○放課後補充教室・新チャレンジ教室（1・2年生）

各学級毎月2回 放課後補充教室・新チャレンジ教室を設定し、スクールサポートティーチャーによる補充教室を実施する。各担任が児童のつまずきに応じてプリントを用意する。

○家庭学習の定着

各学年で足並みを揃え、家庭学習の課題を出す。どのような内容をどの程度家庭で取り組めばよいのかを明確に指示し、毎日実施状況を確認して、学習習慣を定着させる。教員間の意識の統一を図り、学級差がないようにする。遅れの見られる児童には個別の課題を出す。

(2) 課題解決型の学習過程の定着

毎時間の授業では、課題解決型の学習や体験学習を取り入れる。児童が自ら課題を設定し、課題解決を通して自ら考え判断し、表現できる能力を育成する。

- 0 前時のふりかえり（既習事項の確認）
- 1 課題提示（学習課題を立てる めあてをつかむ）
- 2 見通し（答えの見通し・解決方法の見通し）
- 3 自力解決（自分で考える・発表の練習をする）
- 4 発表・検討（グループで・全体で考える・よりよい方法を考える）
- 5 まとめ（分かったことをアウトプットする）
- 6 適応問題（定着を図る）ふりかえりシート・問題データベース

- ・学習規律を定着させ、自力解決の時間を確保する。
- ・話形を用いて、自分の意見やその根拠をはっきりと述べられるように指導する。
- ・教師と児童のやりとりでなく、児童相互に意見交換ができるように促す。

（３）ＳＰ表の活用と理科・社会の復習

令和７年度の墨田区学習状況調査の結果分析の際には、ＳＰ表を活用し、児童個々の課題とつまずきの多い問題の分析を丁寧に行い、**全国平均を下回った観点は、現学年で補充の学習を取り入れるとともに、１学年下の学年につまずきの箇所を確実に引き継ぎ、次年度の対策を行う。**

授業及び家庭学習において「ふりかえりシート」や「問題データベース」のプリントを活用し、習熟を図る。必ず覚えなければならない用語は確実に覚えさせる。授業中に、毎時間ふりかえりの時間を確保し、本時の学習内容について、分かったこと学んだことを文章や言語活動を通じて、アウトプットさせる活動を取り入れる。

宿題や家庭での自由勉強でも、社会・理科の学習に取り組ませ、学習内容を定期的に想起させる。

（４）自主学習の推進

９月と２月の第３週目に自主学習週間を設け、全学年で自分の設定した課題に沿って自主学習を行う。学習の進め方は学級で指導し、中・高学年はノートの見開きを１日分として、バッチリメニュー（漢字・計算等のスキルアップ等）とわくわくメニュー（自分の興味関心を深める自由課題）の２本立てで、バランスよく楽しみながら学習できるようにする。低学年は、学校で学習した内容の復習を自主学習ノートに書いて進める。

（５）教師による主体的な授業改善

区学力調査の結果を受け、学校独自の「授業改善に向けた自己診断シート」に取り組んだ。課題解決学習の学習過程に沿った１０項目の診断で指導の課題を洗い出し、９月から授業改善の手立てを実行していく。各教員の目標、進捗については、自己申告面接において聞き取り、指導を行う。